

500トン型巡視船

JAPAN COAST GUARD Medium Patrol Vessel



艦船事業本部

横浜事業所

び操船コンソールから可能とし、主配電盤には自動同期投入、自動負荷負担、母線異常による発電機切換などの自動化装置を組み込み、省力化を図った。非常用電源として、非常用発電機を上甲板に配置し、発電機が損傷をした際でも船舶の航行に必要な電力が供給可能なシステムとした。

操舵室の主機付属監視記録装置は、主機及び発電機諸元の他、船速、海水温度、外気温度等を表示し、主機及び発電機の異常警報発令が可能なものとした。

1. はじめに

本船のシリーズは、海難救助等の一般警備救難業務に従事するほか、大規模災害時の対応等に従事する海上保安庁の巡視船で、1番船「かとり」を平成28年11月に完工した後、合計8隻建造された。本船の主な特徴を紹介する。

2. 本船の特徴

2.1 一般性能

船型は、横揺れ安定性、推進性能及び耐航性能を考慮して角型断面とした。主機は軽量、大出力の高速ディーゼル機関を使用し、推進器は高速、高機動性に対応するためウォータージェットを採用した。また、外洋において長期の漂泊状態での警戒、哨戒を行うため、動揺軽減に努めた。

2.2 船体部

主船体は、警備業務に対応する材質とし、他船への接舷用の防舷材を装備した。後部上甲板には、災害派遣時に12フィートコンテナ2基が搭載出来るようコンテナ装置を装備した。女性保安官の着任を前提とし、女性諸室の実物大模型を製作し、審議会を実施した。その結果を諸室装置設計に活用した。

2.3 機関部

主機及びウォータージェット推進装置の操縦は、操舵室で行う遠隔操縦方式とし、操作の容易さ、機構の簡素さから電気油圧式とした。機関室内の諸機器は、取り扱い及び点検が容易に出来るように配置した。

2.4 電気部

本船には、ブラシレス式交流発電装置2台を補機室に装備した。発電機の発停は、機側の他、主配電盤及

2.5 計器部・通信部

操舵室内の操船区画及び通信区画は、実物大の模型を製作し、審議会を実施した後、操舵室内の諸設計に活用した。操船コンソールには、操舵装置、主機遠隔操縦装置、主機付属監視記録装置及び航海装置等を装備し、乗員の操船、監視、制御、操作を容易に行えるように配慮した。また、操舵室内の機器については、スペースを有効活用し、良好な通行性を確保した。

3. おわりに

当社の高速巡視船艇の建造は、90隻以上の建造実績があり、各方面から高い評価を得られている。

また、本船型についても、海上保安庁各方面から高い評価を頂いている。

表1「500トン型巡視船」主要目
Table 1 Principal particulars

全長	72.0 m
最大幅	10.0 m
型 深	5.0 m
総トン数	650
主機関形式	ディーゼル機関 2基
推進器	ウォータージェット 2基